

講演会「創造社会 Society 5.0 の実現： 技術革新のビジネス化で超高齢化社会に挑む」開催

開催日：2019年10月4日(金)

場所：経団連会館

プログラム

開会挨拶：ラリー・グリーンウッド 北カリフォルニア・ジャパンソサエティ 会長

講演：サラ・トーマス Seismic(サイズミック) バイスプレジデント

菅原 充 QDレーザ 代表取締役社長

中西 敦士 トリプル・ダブリュー・ジャパン 代表取締役

パネルディスカッション：

講演者3名

上田 敬 日本経済新聞社 編集局編集企画センター担当部長(コメンテーター)

菅原 康之 ブラッククロージャピタル 代表取締役(モデレーター)

経済広報センターは4日、東京・大手町の経団連会館で、北カリフォルニア・ジャパンソサエティの協力のもと講演会「創造社会 Society 5.0 の実現～技術革新のビジネス化で超高齢化社会に挑む」を開催した。少子高齢化に伴う労働力不足など社会課題の解決を目指す日米のスタートアップ企業3社とベンチャーキャピタリスト、メディア有識者が登壇し、会員企業などから約100名が出席した。

はじめに、米国の非営利科学研究組織からスピンオフし設立されたサイズミック社 バイスプレジデントのサラ・トーマス氏が、ロボット技術をアパレルデザインに融合させた「パワード・クロージング」を紹介。続いて、独自の「網膜走査型レーザーアイウェア技術」を医療福祉分野からスマートグラスまでに応用するQDレーザ社長の菅原充氏、高齢者や介護施設向けに排泄予測機器・サービスを提供するトリプル・ダブリュー・ジャパン社代表取締役の中西敦士氏がそれぞれ、人の身体能力を拡張・補完する製品や技術を紹介した。その後、ブラッククロージャピタル代表社員の菅原康



左から、上田敬氏、サラ・トーマス氏、中西敦士氏、菅原充氏、菅原康之氏

之氏をモデレーターに、聴講者を交えた活発な議論を展開。先端技術の社会実装に向けた課題として、規制当局や大企業との連携、運転資金調達な

どについて認識を共有した。また、コメンテーターを務めた日本経済新聞社の担当部長上田敬氏は、投資ファンドの投資判断にもSDGs（持続可能な開発目標）やSociety 5.0のコンセプトが広がるなか、国内外で社会課題を起点にしたスタートアップの起業や育成支援が進み、社会によいインパクトを与える新しいビジネス機会が生まれつつある現状を紹介した。

一般財団法人 経済広報センター 国際広報部

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-2 経団連会館19階

電話：03-6741-0031

<http://www.kkc.or.jp/> ※本稿の無断転載を禁じます。